

## 技術士合格体験記

技術士（機械部門） 杉岡 良吉

私が技術士に合格したのは、平成3年であり、少し古い経験になるのですが、技術士を目指す人のお役に立てればと考え、合格のために自分として努力したこと、心がけたことなどを述べたいと思います。

私は、鉄鋼メーカーのエンジニアリング部門に所属して、化学プラント等の設計・建設業務を担当してきました。その中で、技術開発案件として、実験室レベルでの研究より、実証規模パイロットプラント操業までの5年間に及ぶプロジェクトに従事しました。すなわち、小規模から大規模にいたる各種の実験装置の設計・建設業務を担当し、装置開発のキポイントであるスケールアップ技術開発を担当しました。この開発業務で得られた成果は、学会誌等に発表し、学位論文としてまとめ、工学博士の学位を取得しています。

これらの経験を業務経歴としてまとめ、技術士試験のためのセミナーにも参加し、論文の記述について、論文としての内容や、表現方法が、試験官の求めているレベルに到達しているのか、セミナー講師による添削、コメントにより、ブラッシュアップを図りました。自分の書いたものが他の人が読んでわかりやすい、平易な表現なのかどうか、等については、やはり経験のある方に意見をもらうことが大切なことだと思います。

また、自分の関係している技術分野について、好奇心を持ち続け、新聞、雑誌や他の人との会話等のあらゆる機会を有効に活用して、できるだけ幅広く知識を吸収していくことが必要だと思います。特に文章を読むことは、その内容を論文形式で説明するためにも、役に立つことだと思います。

技術士試験には、面接による試験もあり、慣れない形式で戸惑うことも多いかと思いますが、自分がやってきた業務経験について述べるわけですから、自信を持って、試験官に対して、はっきりと堂々と回答することを心がけました。業務として、客先等にプレゼンテーションを行う経験もあると思いますが、原稿を見るだけで、相手を見ずに、話をするはその内容が相手に伝わらないだけでなく、印象を悪くすることになりますので、避けるように努力することが必要だと思います。